

## 編集後記

今年の5月農業基本問題調査会の政府に対する答申があつて、われわれにもおぼろげながら農業の進路というものが見えてきました。畜産生産は10年後にはさらに3倍に伸びるとの見透しであり、また経済審議会の報告試算によれば昭和45年には、畜産物消費は5倍になる見込みであるといひます。

そのためにわたくしたちの仕事の量が増えてきたのかどうか、最近は何にか随分忙しく、世の中の発展のテンポが一段と速くなったような感じがします。そして今年の今頃、さらに一昨年今頃と農業経営、畜産経営に対しての考え方が大きく変わってきていることが痛感されます。

農業の進路についての見当が付くならば今の米作農業の安定しているうちに早く農業経営の切り替えを考えて、将来の着実な発展の基礎を一刻も早く築いておくことが大切だと思われまふ。

しかし農業部門の中で陽の当る産業といわれる畜産にも解決をせまられている課題は多く、生産基盤の拡大合理化や、これに連る共同化、生産施設の改善、草地造成、さらに消費流通面の改善などいずれも大きな問題です。

本誌もこういっためまぐるしい畜産の変革の中にあつて、ささやかながらも会員諸兄のお仕事の支えとなり、糧となるべく進歩していかなければと考えておりますので、今後とも内容充実のために、あるいは購読者の勧誘に一層御協力、御援助をお願いする次第です。

内容その他について、御気付きの点や御希望等がありましたら御連絡下さい。まためづらしい話題、一般に紹介すれば参考になるような事項があればお知らせいただくようお願いいたします。